

【胡桃色(くるみいろ)】胡桃の樹皮や実の外皮で染めたような淡い褐色。

現在、おつまみとしてよく目にするのは明治時代に渡来したセイヨウグルミ。日本でも古来から在来種のおニグルミなどが食用として用いられ、奈良時代には紙の染色も行われていた。ちなみに、『源氏物語』の光源氏もこの胡桃紙を恋文に使っていたとか。やりとりされた恋文の色や材質に思いを重ね、恋人たちは一喜一憂したのかもしれない。

●目次／contents

今月のニュース.....2

平成29年度「公共ホール音楽活性化事業」全体研修会報告

財団からのお知らせ.....4

「地域創造フェスティバル2017」開催のお知らせ

「市町村長特別セミナー」報告

平成29年度「リージョナルシアター事業」研修会報告

今月の情報.....6

地域通信／アーツセンター情報

今月のレポート.....12

東京都目黒区 東京都写真美術館 総合開館20周年記念
「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 総集編」展

●平成29年度「公共ホール音楽活性化事業」全体研修会

担当者の熱意が伝わる各地のユニークな事例を報告

平成29年度 公共ホール 音楽活性化事業 全体研修会

2017年4月17日～19日



写真

左上: 平成28・29年度公共ホール音楽活性化事業登録アーティストによるプレゼンテーション。岩崎洵奈さん

右上: 福川伸陽さん

左下: 赤丸急上昇によるダンスワークショップ

右下: グループ別企画検討

●平成28・29年度公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト

- 岩崎洵奈(ピアノ)
- 坂口昌優(ヴァイオリン)
- 加藤文枝(チェロ)
- 福川伸陽(ホルン)
- 喜名雅(チューバ)
- ヴィタリ・ユシュマノフ(バリトン)
- 塚越慎子(マリンバ)

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ

芸術環境部 三浦・菊地
Tel. 03-5573-4078
onkatsu@jafra.or.jp

平成29年度公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)の参加団体やコーディネーター、登録アーティストが一堂に会する全体研修会が、4月17日から19日まで地域創造会議室とHAKUJUホール(東京都渋谷区)を会場にして開催されました。今回の研修会では、登録2年目となるアーティスト(平成28・29年度)7名によるプレゼンテーションに加え、今年度の事業に参加する担当者を対象にしたワークショップやレクチャーが行われました。

●担当者の熱意が伝わる事例

研修では、担当者同士の交流を図ることを目的に、公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)支援登録アーティストの赤丸急上昇(赤松美智代・丸山陽子さん)によるワークショップが行われました。その後、おんかつについての基礎や、事業に参加したことのある担当者とアーティストから実際の現場について学ぶ講義が行われました。

事例紹介では、平成26年度に参加したつくば市文化芸術課の中村利昭さんと、真庭エスパス文化振興財団の井尾祥子さんから取り組みを学びました。中村さんは全体研修会のプレ

ゼンテーションで惚れ込んだという前田啓太さん(打楽器)を招聘。「叩いたり、引っ掻いたり、震わせたりして音が出るものはすべて楽器だと言う前田さんにすごく共感しました。楽器は身近なものであり、音楽って身近に楽しめるものだと伝えたいと思いました」と中村さん。また、高見信行さん(トランペット)を招聘した真庭市では、井尾さんの提案により地元消防隊のラッパ隊(信号ラッパを吹くボランティア)とプロの演奏家が共演。本番では、地域と音楽が一体となり、これまで音楽では誰も耳にしたことがない恐竜の叫びのようなラッパの響きが生まれました。

演奏家から取り組みを学ぶ講義には、おんかつ支援登録アーティストの礪絵里子さん・神谷未穂さん(ヴァイオリン)が登壇。筑後市文化振興公社のアウトリーチで樹齢300年の楠林という屋外での演奏をしたこともある礪さんや、七ヶ浜国際村でのアウトリーチで地元神社の拝殿を何カ所も回った神谷さんという経験豊富な演奏家と有意義な意見交換が行われました。

●個性溢れるプレゼンテーション

2日目に行われた登録アーティストによるプレゼンテーションでは、2年目らしい貫禄と工夫さ

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

れたプログラムで見応えあるパフォーマンスが続きました。

トップバッターの加藤文枝さん(チェロ)は、参加者を舞台に上げて、1年目に小学校で行ったアウトリーチ・プログラムを実演。「イメージネーションをフル回転して音楽を楽しんでください」と語りかけ、演奏しながらどんな色や絵をイメージしたかを質問しながら参加者とコミュニケーションし、五感を解放して音楽を聴くことの豊かさを伝えていました。

チューバの喜名雅さんは、巨大な楽器ケースを背負って登場するという意表をついた演出でアピール。「アウトリーチでチューバがどんなことができるのかを聴いていただければ。見た目と違って実は小回りが利きます」と、まるで大きな象がユーモラスに演奏しているかのような『チャールダーシュ』を披露。楽器ケースから取り出した長いホースでチューバの仕組みを説明するなど、馴染みの薄い楽器と観客の距離を縮めるパフォーマンスを展開しました。

同じく馴染みの薄いホルンの福川伸陽さん

は、「オーケストラの後ろに座って演奏しているイメージしかないかもしれませんが、世界一難しい楽器です。5オクターブの音域があるのにピストンは4カ所しかなく、微妙な指使いや息のスピードで音程を変えています」と紹介し、最後にメシアンがアメリカ建国200周年を祝うために作曲した壮大な管弦楽曲『溪谷から星たちへ』の中でホルンのために書き下ろした『恒星の呼び声』を演奏。無限の宇宙空間が広がるかのようなホルンの響きに、会場は聴き入っていました。

また、「マリンバ奏者は楽器ではないものも楽器にして楽しんでいます」と言い、しゃもじやまな板、中華鍋、ホウキ、新聞紙を破る音まで使いこなしたリズム遊びで打楽器奏者の可能性をアピールした塚越慎子さんや参加者を舞台に上げてピアノの下などの至近距離で楽器と演奏の醍醐味を体感してもらった岩崎洵奈さん、ピロードのような声の力で会場を魅了したロシア出身のヴィタリ・ユシュマノフさん(バリトン)、ヴァイオリンの魅力を幅広い選曲で紹介した坂口昌優さんと、あっという間の3時間でした。

- 平成29年度「公共ホール音楽活性化事業」参加団体一覧(全15団体)
- 茨城県鉾田市(鉾田市立大洋公民館)
- 埼玉県秩父市(秩父宮記念市民会館)
- 埼玉県上里町(上里町総合文化センターワープ上里)
- 富山県南砺市(南砺市福野文化創造センター ヘリオス)
- 石川県野々市市(野々市市文化会館フォルテ)
- 長野県塩尻市(塩尻市文化会館レザンホール)
- 愛知県高浜市(高浜市やきものの里かわら美術館ホール)
- 京都府舞鶴市(舞鶴市総合文化会館)
- 大阪府豊中市(豊中市立文化芸術センター)
- 大阪府箕面市(箕面市立市民会館 グリーンホール)
- 広島県坂町(Sunstar Hall)
- 福岡県太宰府市(プラム・カルコア太宰府)
- 佐賀県嬉野市(リパティ 嬉野市社会文化会館)
- 熊本県菊陽町(菊陽町図書館ホール)
- 大分県玖珠町(くすまちメルサンホール)

※お詫びと訂正
前号(5月号)P.3「平成29年度地域創造事業スケジュール」欄に以下の誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

【誤】「公立美術館共同巡回展開催助成事業」(29・30年度2か年プログラム、29年度単年度プログラム)募集

【正】「公立美術館共同巡回展開催助成事業」(30・31年度2か年プログラム、30年度単年度プログラム)募集

【誤】29年度「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」募集

【正】30年度「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」募集

【誤】29年度「公立美術館共同巡回展企画支援事業」募集

【正】30年度「公立美術館共同巡回展企画支援事業」募集

●平成29年度「公共ホール音楽活性化事業」全体研修会スケジュール

	4月17日(月) 地域創造 会議室	4月18日(火) HAKUJUホール	4月19日(水) 地域創造 会議室
10:00		「おんかつから始まるホールと地域の未来」 大澤寅雄(ニッセイ基礎研究所)	「フィードバックとグループ別企画検討」 小澤櫻作、丹羽徹、花田和加子、山本若子
11:00			
12:00			
13:00	オリエンテーション 「ワークショップ」 赤丸急上昇(赤松美智代、丸山陽子)	「フィードバック～これまでのゼミを振り返って～」 「プレゼンテーションの聴き方」 小澤櫻作、丹羽徹、花田和加子、山本若子	「企画発表」 小澤櫻作、丹羽徹、花田和加子、山本若子
14:00			
15:00		平成28・29年度登録アーティスト 公開プレゼンテーション	閉講式
16:00	「おんかつを知るVol.1～基礎編～」小澤櫻作 「おんかつを知るVol.2～実務編～」地域創造	●加藤文枝(チェロ) ●喜名雅(チューバ) ●岩崎洵奈(ピアノ) ●塚越慎子(マリンバ)	
17:00	「おんかつを知るVol.3～事例紹介編～」 Ⅰ. H26真庭市、つくば市の事例 (井尾祥子、中村利昭、小澤櫻作) Ⅱ. 演奏家の事例 (磯絵里子、神谷未穂、丹羽徹) Ⅲ. 事業担当者の役割とは(三浦幸恵)	●福川伸陽(ホルン) ●ヴィタリ・ユシュマノフ(バリトン) ●坂口昌優(ヴァイオリン)	
18:00			
19:00		交流会(～21:00)	

財団からのお知らせ

●「地域創造フェスティバル2017」開催のお知らせ

地域創造が取り組んでいるさまざまな事業を紹介するとともに、公共ホールや自治体が事業を企画・実施する上で参考になる情報を提供することを目的として、「地域創造フェスティバル2017」を8月1日(火)～3日(木)の3日間、東京芸術劇場(豊島区西池袋1-8-1)で開催します。予定しているプログラムは、以下のとおりです。

- ◎地域創造の調査研究事業の成果等に関するシンポジウム
- ◎音楽アウトリーチセミナー
- ◎公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ支援)のプレゼンテーション
- ◎公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)のプレゼンテーション・セミナー

◎平成30年度「地域の文化・芸術活動助成事業」および「地域伝統芸能等保存事業」の助成要綱に関する説明

◎都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議

◎平成30年度「リージョナルシアター事業」に関する説明

公共ホールや自治体の職員の皆様が今後の事業を計画していく上で非常に有益なプログラム内容となっています。また、アーティストや他の地域の公共ホール等とのネットワークづくりや情報交換の場としてもご活用いただける絶好の機会です。

プログラムの詳細と参加者募集は、次号(7月号)でご案内します。多くの皆様のご来場を心よりお待ちしております。

●「市町村長特別セミナー」報告～全国の市町村長等65名が参加

毎年全国の市町村長等を対象に、文化・芸術による地域づくりへの理解を深めていただくために開催している「市町村長特別セミナー」が、4月24日に千葉市の市町村アカデミーにおいて開催されました。今回は地域創造の石川善朗常務理事より、地域にとって芸術・文化がいかに役立つかについて「人づくり」「福祉・医療」「産業」「コミュニティ」の4つの観点でレクチャーが行われました。

「芸術・文化は人を感動させ、人の想像力を高める働きがある。また、多様な表現にふれることによりさまざまな人の立場を理解できるようになるなど人づくりに大きな力がある。また、高齢者の自己表現や生きがいつくりの支援になるだけでなく、神戸市の医療産業都市で行われているアートプログラムのように患者の生きる力を生み出すお手伝いにもなる。山梨県立美術館の『種まく人』が観光資源になり、県のイメージアップになっているように産業振興にも繋がる。そして、地域で文化・芸術活動を通じてお互いに知り合い、仲間意識が醸成されることにより、仲間同士で楽しく、生きがいに満ちたまちづくりを住民主体で進めようという安心・安全・活力のあるコミュニティづくりに繋がる」とアピール。行政の対応事例やこうした領域に対する地域創造の支援事業も具体的に紹介されるなど、実用的なレクチャーとなりました。

また、財団の事業紹介の一環としておんかつ支援登録アーティストによるミニコンサートも行わ

れました。コンサートに登場したのはヴァイオリニストの松本蘭さん(平成24・25年度登録アーティスト)とピアニストの山中惇史さんです。定番のエルガー作曲『愛の挨拶』に始まり、山中さんがアレンジした『誰も寝てはならぬ(オペラ『トゥーランドット』より)』、サラサーテ作曲『序奏とタランテラ』『ツィゴイネルワイゼン』と一瞬にして場の空気を変える迫力ある演奏が続きました。3歳からヴァイオリンを始めたきっかけ、右手を滑らかに動かすためのレガートという基本的な技術からスラスタッカートという高度な技術までの実演、山中さんが客席からのリクエストにより「ミ」「ソ」「ラ」の3音を使って作曲した即興作品の初見でのデュオ演奏、弦が切れるというアクシデントをカバーした見事なピアノソロなど。プロならではのパフォーマンスに最後は何度も大きな拍手が起こり、本物にふれることの効用を市町村長自らが実体験できた貴重な機会になりました。



松本蘭さんと山中惇史さんによるミニコンサート

●地域創造フェスティバルに関する問い合わせ
芸術環境部 高澤・工藤・江坂・上木
Tel. 03-5573-4093

●平成29年度「リージョナルシアター事業」研修会報告

平成29年度リージョナルシアター事業の参加団体と派遣アーティストが集まりワークショップやディスカッション、打ち合わせを行う研修会が、4月24日(月)、25日(火)の2日間にわたって当財団事務所にて開催されました。今回は、今年度参加する8団体(福島県会津若松市、東京都豊島区、神奈川県、富山県高岡市、静岡県袋井市、京都府舞鶴市、広島県三次市、広島県廿日市市)から11人の事業担当者が参加し、交流を深めるとともに当事業の趣旨や可能性を共有する2日間となりました。

地域の課題やホールの展望などを踏まえながら、住民等を対象にしたワークショップや学校へのアウトリーチを行う当事業では、派遣アーティストと参加団体が協働しながらプログラムをつくり実施していきます。今回の研修では、ホールのやりたいことや抱える問題意識を派遣アーティストと共有するための相互の対話がさまざまな場面で行われました。

初日は派遣アーティストの福田修志さん(劇作家・演出家、劇団F's Company代表)によるワークショップを体験。3チームに分かれてバラバラな写真を組み合わせる物語をつくっていききました。演劇的な手法を用いたワークショップの有効性について、神奈川県の藤岡審也さんは「身内で当事業を理解している人が少ないので職員向けにワークショップを行ってみたいです」と話し、実際

にワークショップを体験することによって、企画実現にあたっての具体的なイメージをもつことができたようです。

続いて行った昨年度の事例紹介では、「創造的な地域になるとはどういうことか？」などをテーマに参加者同士の対話が進んでいきました。初めに当財団から「さまざまな考え方や文化を受け入れる寛容性や多様性が地域の創造性に繋がるのではないか？」という問題提起をし、アドバイザーの内藤裕敬さん(劇作家・演出家、南河内万歳一座座長)は「演劇は手段となっているが、アーティストとしての表現欲求が結果的に地域の課題と向き合うことになっているという点が大事」と指摘しました。これを受けて、従来の演劇事業に限らず、学校教育をはじめとしたさまざまな分野と連携していく地域のアートとしての可能性について活発な意見が交わされました。

2日目は前日の議論を踏まえて、参加団体による現時点での計画や事業実施後の展望についての発表が行われました。豊島区の杉田隼人さんからは「企画を立てる前にリサーチをして、課題をピックアップする必要を指摘していただきました。頭がパンクしそうにもなりましたが、同時に実のあるプログラムになりそうな予感と期待をもちました」と強い意欲が語られました。その後、派遣アーティストと参加団体による個別の打ち合わせを行い、2日間の研修会を締めくくりました。



1.福田修志さんによるワークショップ 2.おはなしづくりのアドバイスをする福田さん(左から2人目) 3.おはなしづくり発表。中央で写真を掲げるごまのはえさん 4.派遣アーティストとの打ち合わせ

●リージョナルシアター事業に関する問い合わせ
芸術環境部 戸館・上木
Tel. 03-5573-4124

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailをお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

地域創造情報担当 宇野・高澤

●2017年8月号情報締切

6月30日(金)

●2017年8月号掲載対象情報

2017年8月～10月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」

掲載情報募集中

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。

◎公共ホール等の求人情報

◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報

掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.jafra.or.jp/>

北海道・東北

●北海道函館市

北海道立函館美術館

〒040-0001 函館市五稜郭町37-6

Tel. 0138-56-6311 井内佳津恵
<http://www.dokyo.pref.hokkaido.lg.jp/hk/hbj/>

ニッポンの写実 そっくりの魔力

明治から現代までの日本における“本物そっくり”な表現を紹介する展覧会。西洋美術の流入の刺激から始まる写実的絵画や、近年改めて脚光を浴びている伝統的な職人的技巧による迫真的な彫刻や工芸作品、さらにデジタル技術を駆使した高精細な映像作品など多種多様な約80点の作品によって、“そっくり”の魔力と意味を探る。

[日程]6月10日～8月20日

[会場]北海道立函館美術館



安藤緑山《牙彫 竹の子、豌豆、独活》(大正時代) 清水三年坂美術館蔵

●北海道小樽市

市立小樽美術館

〒047-0031 小樽市色内1-9-5
Tel. 0134-34-0035 星田七重

<https://www.city.otaru.lg.jp/simin/sisetu/artmuseum/>

大月源二展 新たなリアリズムを求めて

プロレタリア美術の代表的な画家として、また小林多喜二の装丁を手がけたことでも知られる函館生まれ小樽育ちの画家・大月源二(1904～71)の回顧展。投獄・服役を経て仮釈放された1930年代後半から、戦後北海道に戻り制作された60年代ま

での作品68点により、その推移を展観するとともに、制作の動機や表現法の変化をたどる。

[日程]4月29日～7月2日

[会場]市立小樽美術館

●青森県青森市

青森公立大学国際芸術センター青森

〒030-0134 青森市合子沢字山崎152-6

Tel. 017-764-5200 金子由紀子

<http://www.acac-aomori.jp/>

青森市所蔵作品+ふるさかはるか展覧会「土のことづて」

土や草、木などの素材に着目して選んだ民具、青森の風景を描いた版画や絵画などの青森市所蔵作品を展示し、青森の人々の生活と自然の関わりを提示する展覧会。北極圏に暮らすサーミ族との交流を元に制作した、ふるさかはるかの木版画作品も展示することで、自然と共に生きてきた人間の知恵や工夫、自然観を浮かび上がらせる。

[日程]4月29日～6月18日

[会場]青森公立大学国際芸術センター青森

●仙台市

NPO法人とっておきの音楽祭

〒980-0014 仙台市青葉区本町2-9-3 6F

Tel. 022-265-0980 菊地新生

<http://totteokino-ongakusai.jp/>

とっておきの音楽祭2017

障がいのある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、音楽のチカラで「心のバリアフリー」を目指す音楽祭。2001年の第1回以来、演奏・歌・ダンスなどさまざまな“チカラ”を表現できるステージを提供し続けている。仙台市中心部の公園や商店街などが会場となり、県内外から340グループが参加する。

[日程]6月4日

[会場]仙台市市民広場ほか

関東

●栃木県小山市

小山市立車屋美術館

〒329-0214 小山市乙女3-10-34
Tel. 0285-41-0968 中尾英恵

<https://www.city.oyama.tochigi.jp/kyoikuiinkai/kurumayabizyutukan/>

裏声で歌へ

時代の“音”“声”をテーマにした展覧会。音や声を通じて、さまざまな表現が互いに結びつき、あるいは切断される複層的な展示を構成する。大和田俊、五月女哲平、本山ゆかりが新作を発表するほか、不慮の事故により亡くなった國府理が制作した『水中エンジン』(2012年)を再制作し、展示する。企画は遠藤水城。

[日程]4月8日～6月18日

[会場]小山市立車屋美術館

●群馬県高崎市

群馬県立近代美術館

〒370-1293 高崎市綿貫町992-1 (群馬の森公園内)

Tel. 027-346-5560 田中龍也

<http://mmag.pref.gunma.jp/>

群馬の美術2017—地域社会における現代美術の居場所

現在の群馬における現代美術の状況を検証しようという展覧会。1980年代まで遡り、資料によって過去から現在へと繋がる現代美術の水脈をたどる。県内で活発な活動を展開する15名の現代美術作家を取り上げ、平面や立体、インスタレーション、パフォーマンスなど多彩な表現を紹介。制作活動を通して地方における現代美術の可能性、または地域社会と現代美術の関わり方を考える。

[日程]4月22日～6月25日

[会場]群馬県立近代美術館

●群馬県伊勢崎市

伊勢崎市境総合文化センター

〒370-0104 伊勢崎市境木島818

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

Tel. 0270-76-2222 岩村智明
<http://www12.wind.ne.jp/sakaibunka/engeki/enframe.html>

第20回伊勢崎市境演劇フェスティバル

県内で活動するアマチュア劇団に発表の機会を提供し、市民に演劇の魅力を伝えることを目的に1997年にスタートし、今年で20回を迎える。今回は6つの参加団体・12公演を予定。群馬県立伊勢崎高校演劇部による『Swing-bye girls』を皮切りに、ミュージカルなど多彩な演目が上演される。

[日程] 6月3日～8月27日

[会場] 伊勢崎市境総合文化センター

さいたま市

プラザイースト
〒336-0932 さいたま市緑区中尾1440-8
Tel. 048-875-9933 井藤秀文
<http://www.saitama-culture.jp/plazaest/>

街の魅力発見! プラザイースト演劇アカデミア 劇団Liebe『サンシャイン! 光があふれる』

2015年に旗揚げした市民劇団「Liebe (リーベ)」の第3回公演。今回は古事記のアマテラスやサノオの神話を下敷きにした物語で、さいたま市無形文化財に登録されており、独特のお囃子を継承している駒形囃子保存会が出演し、地域の伝統文化を盛り込んだ音楽劇となっている。演劇を通して新たな街の魅力を発信し、地域の素晴らしさを伝えることを目指す。

[日程] 5月27日、28日

[会場] プラザイースト

埼玉県和光市

和光市文化振興公社
〒351-0192 和光市広沢1-5
Tel. 048-468-7771 出牛天彦
<http://www.sunazalea.or.jp/>

サンアゼリアスイートR.N.1706 初夏(ハツナツ)のテノール —Early Summer Afternoon—

アーティストを身近に感じてもらうことを目的とし、「様々なジャンルのアーティストがゲストを招き入れる特別な空間」をコンセプトに据えた「サンアゼリアスイート」シリーズ。4回目となる今回は、和光市在住のテノール歌手・布施雅也が、和光市ゆかりの詩人・清水かつらの作詞による『叱られて』などの日本歌曲を爽やかに贈る。

[日程] 6月23日

[会場] 和光市民文化センターサンアゼリア

東京都文京区

文京区立森鷗外記念館
〒113-0022 文京区千駄木1-23-4
Tel. 03-3824-5511 塚田瑞穂
<http://moriogai-kinenkan.jp/>

特別展「鷗外の〈庭〉に咲く草花 —牧野富太郎の植物図とともに—

明治の文豪・森鷗外は草花をよく観察しており、自身の作品の中にも、さまざまな表現手段として500種以上を登場させた。本展では、鷗外作品や鷗外自邸に見られる草花を、同じ1862年生まれの植物学者・牧野富太郎の緻密な植物図とともに展示する。物事を正確にかつ克明にとらえ続けた二人の視点を、植物を通して紹介する。

[日程] 4月8日～7月2日

[会場] 文京区立森鷗外記念館

東京都調布市

調布市文化・コミュニティ振興財団
〒182-0026 調布市小島町2-33-1(調布市文化会館たづくり内)
Tel. 042-441-6171 土井尚治
<http://chofumusicfestival.com/cmf2017/>

調布国際音楽祭2017

調布音楽祭として2013年に開

Topics 狛江市内小中学校校歌を収録したCDを制作

東京都狛江市の「音楽の街—狛江」推進事業の一環として、狛江市内の既存の10校の小中学校および統廃合によりなくなった4校の小学校の校歌を録音し、収録したCD「コマエのコウカ」が完成した。統廃合により歌う機会のなくなった小学校4校(第二・第四・第七・第八小学校)の校歌および狛江市歌「水と緑のまち」は、公募により結成された「文化フェスティバル合唱団」、前嶋のぞみ(ソプラノ)、小林紗季子(メゾソプラノ)らの合唱を公開収録。また中学校4校の校歌は、平成25年度の合唱コンクール生徒合唱を収録した。狛江市の文化財として保存し、将来に伝えていく。

[問い合わせ] 狛江市文化振興事業団

Tel. 03-3430-4106

音楽の街—狛江 公式サイト

<http://onkoma.jp/>



催されてから5年目となる。今年から名称を「調布国際音楽祭」と改め「バッハの演奏」「アートとの連携」「次世代への継承」という3つのテーマで開催。国内の名手が集い、昨年好評を博したフェスティバル・オーケストラは、指揮に鈴木雅明を迎え、今年には管楽器も加わりさらにパワーアップ。ほかにも、都内では初めてとなるバッハ・コレギウム・ジャパンによる全曲モーツァルトのシンフォニープログラムなど、新鮮な企画が用意されている。

[日程] 6月11日～18日

[会場] 調布市グリーンホール、調布市文化会館たづくりほか

東京都羽村市

羽村市生涯学習センターゆとろぎ
〒205-0003 羽村市緑ヶ丘1-11-5
Tel. 042-570-0707 柳田智恵美
http://www.hamura-tokyo.jp/shisetsu_gaiyou/yutorogi01.html

平成29年度 伝統文化交際事業 in ゆとろぎ『越中八尾おわら風の盆と西多摩の郷土芸能』

全国各地のさまざまな伝統芸能

を紹介する事業。「越中八尾おわら風の盆」は毎年9月に富山県で催され、編み笠を被った踊り手たちが、唄・三味線・胡弓・太鼓に合わせて情緒豊かに踊ることによって全国に知られる。このおわら風の盆を、越中八尾おわら保存会が一足早く羽村で演じる。また西多摩地区の郷土芸能として、青梅市の高水山古式獅子舞保存会が地元で継承されてきた演舞を披露する。

[日程] 6月24日

[会場] 羽村市生涯学習センターゆとろぎ

神奈川県平塚市

平塚市美術館
〒254-0073 平塚市西八幡1-3-3
Tel. 0463-35-2111 土方明司
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/art-muse/index.html>

リアル(写真)のゆくえ

高橋由一、岸田劉生、そして現代につながるもの

平塚市美術館の後、足利市立美術館、碧南市藤井達一現代美術館、姫路市立美術館を巡

回する4館の共同企画。移入され150年を経た写実がどのように変化し、また変化しなかったのか、日本独自の写実とは何かを作品により検証し、明治から現代までの絵画における写実のゆくえを追う。会期中、巡回4館の学芸員によるリレーギャラリートークや、江尻潔(足利市立美術館学芸員)×土方明司(当館館長代理)の対談なども開催。
[日程] 4月15日～6月11日
[会場] 平塚市美術館

北陸・中部

●富山県入善町

入善町文化振興財団
〒939-0626 下新川郡入善町入膳3200
Tel. 0765-72-1105 上田智文
<https://www.town.nyuzen.toyama.jp/cosmo/kyoiku/bunka/bijutsukan/bijutsukan/index.html>

本郷仁「視線の幾何学・光の修辞学」

富山市在住の立体造形作家・本郷仁の個展。鏡の映り込みと反射に関心を寄せる本郷のインスタレーション4点、立体3点、平面2点の計9点(うち8点は新作)を展示する。美術館の空間を作品に取り込み、そこに映る虚像と実像を介して、鑑賞者に“見る”ことや世界の知覚という行為を再考することを促す。
[日程] 4月15日～7月2日
[会場] 入善町下山芸術の森発電所美術館



《やわらかな境界》(2017年/鏡、アルミ)

●石川県七尾市

石川県能登島ガラス美術館(七尾美術財団)
〒926-0211 七尾市能登島向田町125-10
Tel. 0767-84-1175 竹本加奈
<http://nanao-af.jp/glass/>

板ガラスの表現～ひろがるかたち、無限の可能性～

身近な製品にも使われており、普段の生活では気にも留めない素材としての板ガラスだが、作家たちのさまざまな技法と表現によって、多彩な姿を見せる作品に生まれ変わる。そうした広がりや造形の魅力を5名の現代作家による作品計34点で紹介。各作家の作品を併せて見ることで、板ガラスの無限の可能性を感じることができる。
[日程] 4月15日～7月9日
[会場] 石川県能登島ガラス美術館

●福井県鯖江市

めがねのまちさばえフェスティバル実行委員会
〒916-8666 鯖江市西山町13-1(鯖江市めがねのまちさばえ戦略室内)
Tel. 0778-53-2263 今宮知宏
https://www.city.sabae.fukui.jp/about_city/kekaku_torikumi/oshirase/MeganeNoMachiFes.html

めがねのまちさばえフェスティバル2017

今年6回目を迎える「吹奏楽フェスティバルinSABAE」は、めがねをモチーフにしたものづくり体験イベント「めがねフェス」と同時開催され、朝から夜までめがねと音楽に親しむことができるフェスティバル。「吹奏楽ライブ!」(10日)には世界的トロンボーン奏者・中川英二郎、「吹奏楽スペシャルコンサート」(11日)には明浄学院高校吹奏楽部(大阪)が出演。毎年恒例のめざましテレビとの合同企画「めざま

しLIVE」には人気ロックバンドflumpoolが出演し、地元吹奏楽部との共演も行う。
[日程] 6月10日、11日
[会場] 鯖江市文化センター前(メガネストリート)、鯖江市総合体育館、鯖江市文化センター

●長野県松本市

まつもと市民芸術館
〒390-0815 松本市深志3-10-1
Tel. 0263-33-3800 小川知子
<http://www.mpac.jp/>

或いは、テネシーワルツ

劇場を飛び出し演劇を届ける新プロジェクト「トランクシアターシリーズ」の第1弾。旅行鞆ひとつにお芝居を詰め込んで、ふらっと訪れた先で上演するコンセプト。今回は芸術監督・串田和美らの出演により、『テネシーワルツ』が奏でられる中で、過去や現在、未来からも逃げ出したい可笑しな男の物語を住宅地にある旧保育園で上演。シンプルな空間で濃密な演劇体験ができる。
[日程] 5月31日～6月4日
[会場] 旧幸町保育園

●長野県大町市

北アルプス国際芸術祭実行委員会事務局
〒398-8601 大町市大町3887(大町市まちづくり交流課国際芸術祭推進担当内)
Tel. 0261-23-5500 丸山優一
<http://shinano-omachi.jp/>

北アルプス国際芸術祭2017～信濃大町 食とアートの廻廊～

長野県の北西部、3,000m級の山々が連なる北アルプス山脈の麓に位置する大町市で今年から開催される大規模芸術祭。総合ディレクターは大地の芸術祭や瀬戸内国際芸術祭なども手がける北川フラム。土地固有の生活文化を表現する“食”と、地域の魅力を再発見するアートの力によって、北アルプス山麓の地域

資源を世界へ発信することを目指す。川俣正や栗田宏一、大岩オスカル、布施知子、山下洋輔、伊藤キム、ジミー・リャオ、フェリーチェ・ヴァリーニら国内外から36組のアーティストが参加。
[日程] 6月4日～7月30日
[会場] 大町市内各所(源流エリア・仁科三湖エリア・市街地エリア・東山エリア・ダムエリア)

●長野県小布施町

おぶせミュージアム・中島千波館
〒381-0201 上高井郡小布施町小布施595
Tel. 026-247-6111 宮下真美
<http://www.town.obuse.nagano.jp/site/obusemuseum/>

開館二十五周年記念「今治市大三島美術館コレクション展」

1986年に現代日本画を扱う美術館としてオープンし、中島千波をはじめ昭和15(1940)年に以降に誕生した作家の作品を多数所有する今治市大三島美術館との交流企画展。現在日本画壇で活躍している作家たちが若手作家だった頃の作品約30点が、20年ぶりに小布施に集う。
[日程] 5月12日～6月27日
[会場] おぶせミュージアム・中島千波館

●静岡市

静岡市清水文化会館マリナート
〒424-0823 静岡市清水区島崎町214
Tel. 054-353-8885 村田あゆみ
<http://www.marinart.jp/>

“響きのある街”プロジェクト マリナートBRASSカップ in Shizuoka City 2017

静岡市内の中学・高校吹奏楽部がコンクール形式で競演する吹奏楽コンサート。ホールでの演奏機会の提供と部活動の一助を目的とし、今年で3回目を迎える。またコンサートとして楽しめる工夫を随所に盛り込み、吹奏

▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

楽ファンの拡大を目指している。今回は15校が出演し、ゲストとして静岡大学吹奏楽団も演奏する。

[日程]6月3日

[会場]静岡市清水文化会館マリナート

●名古屋市

名古屋市美術館

〒460-0008 名古屋市中区栄2-17-25

Tel. 052-212-0001 竹葉丈

<http://www.art-museum.city.nagoya.jp/>

異郷のモダニズム

—満洲写真全史—

日本の敗戦とともに13年5カ月で崩壊した満洲国での知られざる写真表現の変遷に焦点を当てた展覧会。大陸の風景や生活風俗の記録に始まり、絵画的表現の流行を経て、国策としての宣伝活動に利用されていく展開を、作家自身による貴重なプリント作品や当時のグラフ雑誌など多数の資料でたどり、日本のモダニズムが到達し得た豊饒な表現を紹介する。

[日程]4月29日～6月25日

[会場]名古屋市美術館

●愛知県高浜市

高浜市やきものの里かわら美術館

〒444-1325 高浜市青木町9-6-18

Tel. 0566-52-3366 安藤さおり

<http://www.takahama-kawara-museum.com/>

三州鬼師の技—伝統と創造—

日本三大瓦の中でも最大の生産量を誇る三州瓦。その中心的産地の高浜市にある本館は、瓦を取り巻く歴史や文化の紹介をはじめとして、さまざまな人やコトが集まる市民に開かれた場を目指して多様な展覧会やイベントを開催してきた。今回は、伝統を受け継ぎ、技を守りながら新たな創造に挑戦し続ける鬼瓦職

人“鬼師”たちの姿を作品を通して紹介する。関連企画として鬼がテーマの講演会なども開催。

[日程]4月15日～6月25日

[会場]高浜市やきものの里かわら美術館

近畿

●京都市

ロームシアター京都

〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13

Tel. 075-771-6051 長野夏織

<http://rohmtheatrekyoto.jp/>

アルディッティ弦楽四重奏団(音楽)×白井剛(ダンス)

世界最高峰の現代音楽カルテット「アルディッティ弦楽四重奏団」とダンサー・振付家の白井剛がコラボレーションする京都だけの特別プログラム。今回の共演では、20世紀を代表する作曲家のひとりであるヤニス・クセナキスの作品に取り組み、クセナキスを導いた古代ギリシャのピタゴラス(数学)とアリストクセネス(音楽)の理論を舞台に甦らせる。

[日程]6月23日

[会場]ロームシアター京都

●大阪市

山本能楽堂

〒540-0025 大阪市中央区徳井町1-3-6

Tel. 06-6943-9454 山本佳誌枝

<http://noh-theater.com/>

山本能楽堂90周年記念特別能楽公演

“開かれた能楽堂”を目指し、現代アートとのコラボレーションやスマートフォン向けアプリの開発など、多彩な能楽の普及に取り組む山本能楽堂が創設90周年を迎えて行う記念特別公演。能『乱』(山本章弘ほか)、『一角仙人』(梅若玄祥ほか)など4演目を披露する。終演後の懇親会では、配役を変えて行う乱囃子や90年の歴史を振り返る講談(旭

堂南海)も開催される。

[日程]6月11日

[会場]山本能楽堂

●大阪府能勢町

能勢人形浄瑠璃実行委員会

〒563-0341 豊能郡能勢町宿野30(浄るりシアター内)

Tel. 072-734-3241 乾はるな

<http://jyoruri.jp/>

2017年6月能勢浄るり月間

能勢人形浄瑠璃鹿角座公演

古くから伝わる浄瑠璃に人形を加え、オリジナルの人形浄瑠璃を展開している鹿角座(ろっかくぎ)の公演。宇宙人が登場する能勢オリジナル演目『閃光はなび〜刻の向こうがわ〜』のほか、『能勢三番叟』、古典演目『義経千本桜一道行初音旅』を上演する。演目の間にパネル・映像等を使用した解説を取り入れ、より親しみやすい舞台を目指す。

[日程]6月24日、25日

[会場]浄るりシアター

●神戸市

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

Tel. 078-262-0901 村田大輔

<http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

県美プレミアム Out of Real

—「リアル」からの創造/脱却

9,000点を超える所蔵作品の中から、テーマを設けコレクションを紹介する「県美プレミアム」。今年度第1期のキーワードは「リアル」。18世紀から現在までに制作された、およそ70作家の作品を展示。「繫・関」「変・語」「転・現」「虚・成」「生・実」「望・迫」の6つに切り分けてリアルのもつ多様な意味を考える。

[日程]4月1日～6月25日

[会場]兵庫県立美術館

●神戸市

横尾忠則現代美術館

〒657-0837 神戸市灘区原田通3-8-305

Tel. 078-855-5607 平林恵

<http://www.ytmoca.jp/>

開館5周年記念展

ヨコオ・ワールド・ツアー

横尾忠則の作品のみならず作家が所有する膨大な二次資料のアーカイブ化に取り組み続け、昨年アーカイブ資料を主体とした展覧会を開催。その展示の調査を踏まえてさらなる展開を試み、世界各国を訪れた横尾の足跡をたどり、横尾の視点を通して、その時代と文化を疑似体験する。期間中は横尾と交流のある音楽家Ayuoのライブイベントなどの関連イベントも開催。

[日程]4月15日～8月20日

[会場]横尾忠則現代美術館

●兵庫県豊岡市

Toyooka Art Season 2017事務局

〒668-8666 豊岡市中央町2-4 (豊岡市文化振興課内)

Tel. 0796-23-1160 杉立茉莉

<http://arts-tabi.jp/artseason2017-summer/>

Toyooka Art Season 2017(夏会期)

演劇や音楽、美術など多様なプログラムを開催するアートの祭典。夏会期は、プロの俳優と地元市民が共演する演劇プロジェクト「内藤裕敬と関西の俳優たち×市民演劇」、城崎国際アートセンターに滞在するアーティストが地元の子どもたちとのワークショップなどを経て作品の創作・上演を行う「テアトロ・ムジーク・インプロヴィーズ『うつくしいまち』」、岡山県奈義町の小中学生による子ども歌舞伎の上演など、32のプログラムを行う。

[日程]6月27日～10月1日

[会場]豊岡市民会館、豊岡市民プラザ、城崎国際アートセンター、出石永楽館ほか

●奈良県奈良市ほか

奈良県

〒630-8501 奈良市登大路町30

奈良県文化振興課

Tel. 0742-27-8917 増田裕人

<http://www.naraken.com/musik/>

ムジークフェストなら2017

2012年に始まった、6月の古都・奈良を彩る音楽祭。クラシックやジャズを中心としたさまざまなジャンルの音楽を、音楽ホールや美術館、街なかをはじめ、東大寺や薬師寺など世界遺産の社寺など奈良らしい会場で楽しめる。県内22市町村で約250公演が行われ、出演アーティストによるアウトリーチも実施される。

[日程] 6月10日～25日

[会場] 奈良県文化会館、橿原文化会館、なら100年会館ほか県内各所

中国・四国

●鳥取県鳥取市

鳥取県地域振興部文化政策課

〒680-8570 鳥取市東町1-220

Tel. 0857-26-7134 岡和宏

<http://www.dentou-geinou.net/>

第8回とっとり伝統芸能まつり

「つながる」「ふれあう」「もてなす」「輝く」をテーマに開催している伝統芸能まつり。8回目の今年は県内の団体だけでなく、徳島県(徳島県阿波踊り協会)、韓国(江原道立国楽管弦楽団)からも招聘し、それぞれの地域で守られてきた行事・芸能が一堂に会す。昨年に引き続き、今年も70人近い高校生ボランティアが参加し、地域全体でまつりを盛り上げる。

[日程] 6月18日

[会場] とりぎん文化会館

●広島市

広島市現代美術館

〒732-0815 広島市南区比治山公園1-1

Tel. 082-264-1121 小島ひろみ

<https://www.hiroshima-moca.jp/>

村野藤吾の建築

—世界平和記念聖堂を起点に

戦前戦後を通じて関西を中心に活動した、日本を代表する建築家・村野藤吾(1891～1984)を俯瞰的な視点で振り返る展覧会。村野建築の特徴が随所に見られる代表作、広島の世界平和記念聖堂を大きく取り上げる。見どころのひとつである、何度もデザインを重ねた聖堂の検討案によって、村野のこだわりが垣間見える。

[日程] 5月16日～7月9日

[会場] 広島市現代美術館

●山口県宇部市

ときわミュージアム

〒755-0025 宇部市野中3-4-29

Tel. 0836-37-2888 三浦梨絵

<https://www.tokiwapark.jp/museum/>

春のコレクション展2017「宇部派—宇部彫刻の系譜」Ⅱ期

宇部市が1961年から開催している国際野外彫刻コンクール「UBEビエンナーレ」で、ときわ公園内に展示されている多くの出品作品を見つめ直し、宇部独自の彫刻スタイルに迫る展覧会。野外に展示するための作家の技術や、周囲と調和していく野外彫刻の面白さを紹介することで、その魅力を再発見する。

[日程] 5月20日～6月11日

[会場] ときわ湖水ホールアートギャラリー

●高知県高知市

高知県立美術館

〒781-8123 高知市高須353-2

Tel. 088-866-8000 松本教仁

<http://kochi-bunkazaidan.or.jp/~museum/>

高崎元尚新作展

—破壊 COLLAPSE—

94歳を超えてもなお前衛的な作品制作に挑み続ける高知県香美市出身の美術家・高崎元尚

の全点新作による展覧会。「装置」と並ぶ代表作でありながら、これまで鑑賞の機会が限られていた「破壊」シリーズの新作インスタレーションを、コンクリートブロック2,100個やレンガ1,500個を用いた大規模作品を含め、5つのセクションで紹介する。

[日程] 6月17日～7月23日

[会場] 高知県立美術館

九州・沖縄

●福岡市

福岡県立ももち文化センター

〒814-0006 福岡市早良区百道2-3-15

Tel. 092-851-4511

<http://www.momochi-palace.net/>

全国シニア演劇大会 in 福岡

2011年にNPO法人シニア演劇ネットワーク主催のもと東京でスタートして以来、全国のシニア劇団のネットワーク事業ともなっている演劇大会。今年は福岡県立ももち文化センターと共催で行う。高槻シニア劇団恍惚一座、仙台シニア劇団まんざらのほか、九州から劇団かつこん党(福岡市)、のべおか笑銀座(宮崎県延岡市)、シルバーパンサー(福岡市)など、計12団体が出演する。

[日程] 6月2日～4日

[会場] 福岡県立ももち文化センター

●北九州市

北九州芸術劇場

〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-11

Tel. 093-562-2655 市川・安元

<http://q-geki.jp/events/2017/yanobe/>

北九州芸術劇場×北九州市立美術館分館vol.5「10万の寝言」

今年で5回目を迎える北九州芸術劇場と北九州市立美術館のコラボレーション公演。現代美術家ヤノベケンジによる約3メートルの立体造形作品をモチーフに、泊篤志(飛ぶ劇場)ら3人の

劇作家が短編作品を書き下ろし、オムニバス公演を行う。美術をテーマにした演劇と実際の作品を同時に鑑賞する新感覚アートが堪能できる。

[日程] 6月8日～11日

[会場] 北九州市立美術館分館

●福岡県直方市

直方文化青少年協会

〒822-0034 直方市山部364-4

Tel. 0949-25-1007 津田克之

<http://www.yumenity.jp/yumenity/>

ピアノデュオ デュエットウ「子どもとつくるクラシックコンサート」

公募で集まった小学生が「ケチャマス会議」という3日間の音楽ワークショップでピアノデュオデュエットウの二人と一緒にコンサートの内容を考えてつくり、発表するコンサート。今回は16人が参加し、参加者にもお客さんにも色んな楽しさや喜びを感じてもらおうと、「HAPPY」をテーマにコンサートを開催する。

[日程] 6月25日

[会場] ユメニティのおがた



昨年の「ケチャマス会議」の様子

夏休み子ども企画／フェスティバル情報求む！

7月号(6月25日発行予定)では恒例の「夏休み子ども企画／フェスティバル特集」を予定しています。下記までどしどし情報をお寄せください。

Tel. 03-5573-4066

Fax. 03-5573-4060

letter@jafra.or.jp

締め切り：6月上旬

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフットの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造情報担当 宇野・高澤
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

●千葉県浦安市

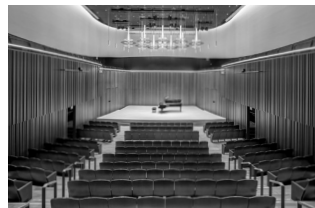
浦安音楽ホール

〒279-0012 浦安市入船1-6-1

Tel. 047-382-3035

<http://www.urayasu-concerthall.jp/>

◎2017年4月8日オープン



©SATOSHI ASAKAWA

新浦安駅南口から150メートルの場所にある旧新浦安駅第6自転車駐輪場の跡地に誕生した商業ビル内にオープン。生音を重視し、クラシックを中心とした音楽を楽しむことができる豊かな響きを有する天井の高いシューボックス型のコンサートホールを中心として、可動式の客席で音楽・演劇・ダンスなどさまざまな公演に対応可能なハーモニーホール、音楽活動を行う市民のための5室のスタジオなどを併設。それぞれのスタジオにはグランドピアノやアップライトピアノ、デジタルピアノ、ドラムセットなどの演奏設備が充実している。

千葉を拠点に活動する弦楽四重奏団「クアルテット・エクセルシオ」のレジデンス・プロジェクトの展開をはじめとして「音楽のバリアフリー」を目指し、一流アーティストの招聘や子どもや親子に向けたワークショップ、多彩な普及公演や体験講座などの自主事業を実施していく。

[オープニング事業]諏訪内晶子こけら落としコンサートほか

[施設概要]コンサートホール(303席)、ハーモニーホール(201席)、スタジオA～E(16～91㎡)ほか

[設置者]浦安市

[管理・運営者](株)コンベンションリンケージ

[設計者](株)INA新建築研究所

●大阪府豊中市

豊中市立文化芸術センター

〒561-0802 豊中市曾根東町

3-7-2

Tel. 06-6864-3901

<http://www.toyonaka-hall.jp/>

◎2017年1月グランドオープン



市民会館を建て替え、音楽ホール・美術・博物の展示機能を併せ持つ複合施設。既存のアクア文化ホール(1984年開館)、ローズ文化ホール(1989年開館)との総称「豊中市市民ホール」として、日本センチュリー交響楽団も管理・運営の一員となって新たに3施設一体となった連携運営を行っていく。

「つくる」「まじわる」「ひろげる」をテーマに掲げ、市と指定管理者で共同して鑑賞事業のほか人材育成事業やボランティア組織コーディネート事業、市民協働・共催事業、普及型事業などを計画し、市の文化芸術振興施策と連携・協働するオーケストラならではの魅力的で質の高い文化芸術事業を継続的に展開していく。

[オープニング事業]こけら落とし記念演奏会 日本センチュリー×飯森範親&神尾真由子ほか

[施設概要]大ホール(1,344席)、小ホール(202席)、展示室(約325㎡)、多目的室(約220㎡)、ミーティングルーム、練習室、スタジオほか

[設置者]豊中市

[管理・運営者]JTB・日本センチュリー・日本管財・大阪共立グループ

[設計者](株)日建設計大阪オフィス

●福岡県久留米市

久留米市美術館

〒830-0862 久留米市野中町

1015

Tel. 0942-39-1131

<http://www.ishibashi-bunka.jp/kcam/>

◎2016年11月19日オープン



1956年に開館した石橋美術館の建物と活動を引き継ぎ、運営を石橋財団から久留米市に移行、改修工事を経て、久留米市美術館と名称を改めリニューアルオープンした。

久留米ゆかりの画家を核とし九州洋画の体系的なコレクションを形成していくほか、「魅力ある展覧会や教育普及活動の展開」「石橋文化センターをひとつのミュージアムと捉えた活動」「市民と創り育てる仕組みづくり」などをコンセプトに掲げ、「とき」「ひと」「美」を結び、久留米市の文化芸術の発信・創造の拠点として発展していく美術館を目指す。

また石橋美術館別館を改修した石橋正二郎記念館も同日にオープンし、石橋文化センターを建設・寄贈したブリヂストン創業者の歩みやひととなりを伝えるさまざまな資料を紹介していく。

[オープニング事業]「2016 ふたたび久留米からはじまる。九州洋画」展ほか

[施設概要]展示室(1,814㎡)、多目的ルーム(176㎡)ほか

[設置者]久留米市

[管理・運営者](公財)久留米文化振興会

[設計者](株)菊竹清訓建築設計事務所

▼—今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げて
レポートします

東京都目黒区

東京都写真美術館 総合開館20周年記念 「夜明けまえ 知ら れざる日本写真開 拓史 総集編」展



上:三井さん(左)によるギャラリートーク
下:調査結果は一般書籍として販売(山川出版
社「知られざる日本写真開拓史」)

●東京都写真美術館 総合開館20周年
記念「夜明けまえ 知られざる日本写真開
拓史 総集編」
【会期】2017年3月7日～5月7日
【会場】東京都写真美術館 3階展示室
【主催】東京都、東京都写真美術館、読
売新聞社、美術館連絡協議会

*1 「関東」「中部・近畿・中国」「四国・九州・
沖縄」「北海道・東北」の4ブロックに分けて公
開機関をもつ施設等に隔年でアンケートによ
る初期写真調査を実施し、その成果を地域
別の展覧会として発表。調査対象は、美術館
や歴史博物館に加え、古写真情報を所有して
いる可能性のある資料館や文書館、図書館、
大学博物館、教育委員会など。

*2 東京都写真美術館の開館当初は重要
文化財に指定された写真がなかったため、対
応する設備はなかったが、リニューアルに際
して重要文化財が展示できる設備を導入。
本展では実際に重要文化財の写真が展示さ
れた。

専門知識と見識を備えた学芸員による調査
と研究は、私たちに何をもたらすのか。そのひ
とつの答えとなる展覧会「夜明けまえ 知られ
ざる日本写真開拓史 総集編」が昨年9月にリ
ニューアル・オープンした東京都写真美術館で
開催された。

同館は写真と映像専門の公立美術館とし
て、日本における写真の源流を体系的に明ら
かにすることをミッションのひとつに掲げ、こ
れまで知られていなかった全国の初期写真
(幕末～明治期に撮影された古写真)の状況に
ついて2007年から隔年でアンケート調査を実
施(*1)。計7,987カ所に配布し、2,996カ所か
ら回答を得て、358館に初期写真があること
が明らかとなった。これまでは「関東編」など
地域別に紹介する成果展を開催してきたが、
今回はその総集編として、同館のコレクション
に加え、全国41館から選りすぐった初期写真
374点を展示した。

展示は、ペリーと共に訪れた写真師などに
より日本人が初めて被写体となった幕末期の
〈であい〉、下岡蓮杖など第一世代の写真家
による〈まなび〉、天災記録写真なども撮影さ
れるようになったメディアとしての〈ひろがり〉の
3部で構成。5月4日、連休中に行われたギャラ
リートークを取材すると、老若男女80人を超
える参加者が集まり、担当学芸員の三井圭司
さんの解説に熱心に耳を傾けていた。

三井さんは、「デジカメやスマートフォンで
の撮影が当たり前になった現代では、写真とは
イメージ(画像)であるという思い込みがあり
ますが、初期写真はガラス板や紙を支持体とし
た物質として存在しています。イメージだけ
を見ていては、こぼれ落ちるものが多い。台紙
裏面も見えるように展示してありますので、意
匠を凝らした商標やフレームの細工も見えて
いただき、写真文化としてとらえていただきた
いと思います」と丁寧に説明していた。

アンケート調査を踏まえ電話調査を行い、
約160館を現地調査。初期写真の詳細情報を
記載した調査台帳を作成した。こうした調査

の過程で、関東では学校に記録写真として、
北海道では文書館や図書館に開拓歴史資料
として初期写真が保存されている傾向も明ら
かになったという。また、香川県の塩飽諸島
の資料館には咸臨丸の水夫の写真があること
もわかった。高知の山内家から長野の上田松
平家に嫁いだ女性の写真が両地に伝わって
おり、2枚を並べて展示する縁にも恵まれた
という。

調査開始から10年余りが過ぎ、初期写真
を取り巻く環境も大きく変わった。東京都写
真美術館が開館した当初は国の重要文化財に
指定された写真は存在しなかったが、門外不
出になっている島津斉彬像の銀板写真など、
現在では12件が指定されている(*2)。また、海外
でも研究が行われるようになり、会期中には
日本、ドイツ、イギリス、台湾、スイスから
専門家が集まった「初期写真 国際シンポジ
ウム『幕末』」(3月26日)が開催されるなど、
初期写真の価値を見直す機運が高まっている。

『「知られざる日本写真開拓史」展』を続
けてきたことで、初期写真を寄贈したいなど、
市民からの相談も増えました。その際は、ま
ずその写真が撮影された地域の資料館に寄
贈するようにアドバイスしています。そのほう
がより深い縁のある地で活用されるので。我
々が調査対象を公開機関に限ったのも、展
覧会会期終了後にも見たい人が見られる可
能性が続くからです。研究者だけでなく、誰
もが初期写真にアクセスできる環境である
べきだと思っています」と三井さん。

専門学芸員を配し、地道な調査研究と展
覧会企画を続け、日本の写真・映像文化の
センターとしての役割を果たしている美術
館があったからこそ、初期写真への意識が
変わり、市民も関係者も身近にある写真文
化の価値に気づかされた。調査の過程で人
や館との新たな繋がりも生まれたというこ
とで、ここを出発点にした次なるステップ
に期待が高まる。

(アートジャーナリスト・山下里加)